

令和5年度「えひめチャレンジプラン」推進懇話会の開催結果

日時：R6.2.20 13:00～15:00

場所：県庁ドーム会議室

1 会長の選任・副会長の指名

- 会長：東淵 則之委員（松山大学経営学部教授；委員の互選による。）
- 副会長：桐木 陽子委員（松山東雲短期大学教授；委員長の指名による。）

2 意見交換

（1）県政全般について

- ・DXの推進によるデータの活用について、専門部署だけでなく、全庁を挙げてトレーニングし、データを活用した県政を進めてほしい。
- ・県民が心を豊かに、前向きになれることが大事で、そのために、子どもたちへ前向きなメッセージの発信が必要
- ・観光分野で自治体と民間が協力して国の予算獲得に取り組んでいるように、他の分野でもそのような機会を県で積極的に作ってほしい。
- ・大学生が就職活動を始めるまでに県内企業を知ってもらうことが重要。それが愛媛県への愛着を高めることにもつながる。
- ・県の様々な部局で若者を対象にした事業を実施しているが、それぞれの事業の情報交換など協力体制を構築すれば、事業の効果がもっと上がるのでは。全体像を示し、総合的に見れば、県は若者のことを考えてくれていると感じてもらえる。
- ・農業体験や食文化普及を通じた、若い人との交流は、年配の人にとっては生きがいとなっており、良い取り組みである。

（2）総合計画の成果動向（KGIレポート）について

○KGIレポート全体について

- ・KGIを設定したことは、大きな前進だが、当初設定のKGIありきではなく、KGI自体の見直しも含め、柔軟に対応すべき
- ・時点が古いKGIがあるが、生産的な議論のためには、できる限り最新時点のKGIが必要
- ・一度県外に出た人間だからこそ分かる愛媛県の良さや問題点があると思うので、県外の人意見が反映されるようなKGIの設定を検討すべき
- ・光回線の普及は、リモートワーク、デジタル化教育及びeスポーツの普及などに必要であり、政策の推進につながるため、「FTTHサービス普及率」を新たなKGIとして追加することを検討してほしい。
- ・KGIの数値目標について、県としては成果順調だと思っていたとしても、県民の意識としては満足していないという可能性がある（ので、KGIの数字だけを見るのではなく、県民の声を把握し、県政に反映することが必要）。

- ・K G Iによっては、男女間で差が大きいものもあるので、要因分析にはできる限りジェンダーの視点も取り入れ、背景を探るべき

○政策7（地域の都市機能の維持・最適化）

- ・施策27「住民の暮らしを便利にするスマート行政の実現(D X)」について、「デジタル総合戦略に掲げるD Xの進捗率」をK G Iとしているが、県民に端的に分かるよう、県がD Xを効率的かつ一体的に進めていることを示すK G Iを検討してほしい。

○政策8（リスクから県民の命を守る安全・安心な生活基盤の充実）

- ・施策29「大規模災害に備えたまちづくり」について、「災害想定死者数」をK G Iとしているが、) 県民の安全・安心につながるよう、端的に災害に備えたまちづくりの現状が分かるK G Iを検討すべき